

〔大和本草六民用草〕烟花略○中 日本ニ初テ來ルコト、天正ノ初年ナルベシ、或曰慶長十年初テ來ル、

〔和漢三才圖會九十九〕煙草略○中

按煙草天正年中、南蠻商舶始貢此種略○註 以植於長崎東土山、

〔奥州會津四家合考十二附錄〕會津舊事土苴考採據於先輩略記者之土苴、而不辨其虛實、載焉以備後之博覽矣、

第百八代後陽成院 慶長四年己亥 此年略○中 荳蔻始用焉、

〔武江年表一〕慶長十年乙巳、南蠻よりタバコ蕃椒オウゴンを渡す、長崎にて櫻馬場へはじめてタバコを栽

一説天正中、蠻人持渡るともいふ、

〔地方凡例録二〕田畑名目之事附四木三草荳蔻始之事

一荳蔻は、三草藍、麻、紅花には非ざれ共、倭漢高卑共是を嗜、三草に續たる物也、元蠻國に生じたる由、

本朝へ種草之渡たる始は、慶長十乙巳年、南蠻國を肥前國長崎へ種渡り、同所櫻之馬場へ作り始、

其後海内に廣まり、今國々に名産有、併禁庭柳營には不用之、諸侯方に而も賓客招請には用ゐざ

る事なり、

〔北窓瑣談 前篇二〕一後世などはだん／＼諸國の通路ひらけ、産物器物等迄も多くなれり、或人の

話に、煙草は慶長十年、南蠻國より種を渡せり、漢土へ渡れるも大低同じ頃とぞ、始の程は火災の

おそれありとて、官よりも禁せられしかど、其禁終に破れて、今にては飲食につぐものとなれり、

漢土も始は禁せしに、其禁破れたりとぞ、味の美なるにもあらず、酔て面白きにもあらず、腹滿る

にもあらず、何の事無きにかくまで人の好めるはいかなる故とも知がたし、

〔慶長日記三〕慶長十二丁未二月、此比たばこと云事はやる、是は南蠻ヨリ渡と云々、廣草葉を刻、火ヲ付煙をのむ、

〔嬉遊笑覽十飲上〕煙草は慶長十二年の頃はやりて、其種を長崎櫻の馬場に植しとかや、望一千句に、

たばこやも君の御恩や思ふらん治れる世の末も長さき、或書に、其頃の日記に、此ごろ多葉粉と